

## 三十三観音巡り

三十三観音めぐりでは、観音様を祀った人吉・球磨エリアの 35 箇所を巡ります。観音像はすべて木造で、中には金めっきが施されたものもあります。観音様は、座った姿や立った姿、また合掌しているものなど、様々な芸術的表現により描かれています。最古の像は、奈良時代（710～794 年）にさかのぼります。

観音像のいくつかは一年中開帳されていますが、多くの観音像は、毎年春と秋のお彼岸の数日間のみ見ることができます。人吉で年中見ることができる観音様が納められている寺としては、三十三観音巡りの 9 番目の寺・観蓮寺の村山観音堂が挙げられます。蓮の花の上に立つ千手観音が描かれており、その腕は、前に伸びているものもあれば、身体から放射状に伸びているものもあります。多くの腕は、すべてを包む観音の慈悲を表しています。この像は 12 世紀にさかのぼり、当時の特徴である柔らかな流れる線を有しています。

三十三観音巡りは江戸時代（1603～1867 年）に広がり、今日でも行われています。春には春分の日、そして秋には秋分の日を含む 7 日間にわたって行われます。相良三十三観音めぐりの期間中、地域社会の人々は、近隣の人や訪れる参拝者と飲食物を分かち合います。